



2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社グラフィコ 上場取引所 東
 コード番号 4930 URL <https://www.graphico.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 長谷川 純代
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CF0兼管理本部長 (氏名) 榎並 正太郎 (TEL) 03-5759-5077
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第2四半期の業績(2022年7月1日~2022年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	2,893	30.8	249	△2.2	245	△4.8	169	△4.7
2022年6月期第2四半期	2,212	—	255	—	257	—	178	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年6月期第2四半期	182.07		176.81					
2022年6月期第2四半期	192.03		183.12					

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2021年3月31日)等を2022年6月期第1四半期会計期間の期首から適用しております。2022年6月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	3,733	2,228	59.7
2022年6月期	2,694	2,093	77.7

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 2,228百万円 2022年6月期 2,093百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年6月期	—	0.00			
2023年6月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,300		165		146		100		107.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年6月期2Q	933,780株	2022年6月期	932,780株
------------	----------	----------	----------

② 期末自己株式数

2023年6月期2Q	74株	2022年6月期	43株
------------	-----	----------	-----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年6月期2Q	933,142株	2022年6月期2Q	928,227株
------------	----------	------------	----------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、景気に緩やかな持ち直しの動きがあり、ウィズコロナの新たな段階への移行も進められている中、地政学的リスクの上昇により端を発した原材料価格の高騰は続いており、為替相場の円安進行も継続して不安定な状況となっており、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社が属する健康食品、化粧品、日用雑貨及び医薬品業界におきましては、国内の個人消費に緩やかな持ち直しの動きがみられる一方で、各種消費財の値上げが行われており、今後の消費動向も含めた影響の予測が難しい状況にあります。

このような状況の下、当社は「モノ創りで、笑顔繋ぐ。」を経営ビジョンとして、変容する働き方やライフスタイルの中で頑張る方々を応援し、笑顔で幸せな生活を楽しんでいただくための商品を創出するメーカーとして、常にお客様の立場に立って、興味・共感を得られる実感値の高いモノ創りに挑戦し続けてまいります。

コロナ禍における新しい生活様式に関連した消費行動の変容を中心に、当社の強みである企画・開発力、プロモーション力を活かし、多様化する消費者ニーズを捉えた高付加価値で競争力の高い商品の開発に取り組んでおり、主力ブランドにおきましては新商品投入や既存商品のリニューアル、商品ラインナップの拡充に向けた取り組みを進めております。

当第2四半期累計期間では、2022年9月に実施した「ハウスホールド」カテゴリーの当社主要ブランドである「オキシクリーン」において一部商品の販売価格改定を実施したものの、リピート需要を中心に好調に推移し、引続き業績全体を牽引したほか、フェムテック分野への積極的なPR活動を実施しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,893,604千円（前年同期比30.8%増）、営業利益は249,896千円（前年同期比2.2%減）、経常利益は245,483千円（前年同期比4.8%減）、四半期純利益は169,898千円（前年同期比4.7%減）となりました。

当社は健康食品、化粧品、日用雑貨、医薬品の企画及び販売を主たる事業とする単一セグメントであるため、セグメント情報に代えて商品カテゴリー毎の取り組み状況について記載しております。カテゴリーは、健康食品を中心とする「ヘルスケア」、化粧品を中心とする「ビューティケア」、日用雑貨の「ハウスホールド」、医療用医薬品と一般用医薬品の「医薬品」、「その他」で構成されております。

なお、「医薬品」カテゴリーにつきましては、2022年11月22日に「会社分割（簡易吸収分割）に関するお知らせ」として公表しておりますとおり、2023年2月1日を効力発生日として他社に医薬品事業を承継させることといたしました。

（ヘルスケア）

ヘルスケアに区分される商品におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うインバウンド需要の停滞が継続しており、未だ回復が不透明な状況にあります。そのため、全体としては低調な動きとなりました。その結果、ヘルスケア商品の売上高は107,426千円（前年同期比26.8%減）となりました。

（ビューティケア）

ビューティケアに区分される商品におきましては、フェムテック商品である「よもぎ温座パット」において、リブランディングを行い、積極的にPR活動やメディア露出を行った成果もあり、売上拡大に貢献いたしました。その結果、ビューティケア商品の売上高は244,577千円（前年同期比13.6%増）となりました。

（ハウスホールド）

ハウスホールドに区分される商品におきましては、酸素系漂白剤ブランド「オキシクリーン」では、継続して積極的なPR活動や更なる認知度向上のためのプロモーション活動を実施してまいりました。注目度の高まりから導入店舗や導入アイテムも拡大しており、つめかえタイプの販売も好調に推移していることからリピート需要の拡大も進んでおり、売上が増加しております。その結果、ハウスホールド商品の売上高は2,465,311千円（前年同期比38.5%増）となりました。

（医薬品）

医薬品に区分される商品におきましては、「ビタミンC2000」シリーズや「酸化マグネシウム錠」の売上は堅調に推移しましたが、医薬品事業の承継に伴う商品廃番の影響もあり、医薬品の売上高は53,058千円（前年同期比7.5%減）となりました。

(その他)

その他売上につきましては、主として植物石鹸等のPB（プライベートブランド）商品を販売しており、売上高は23,230千円（前年同期比70.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ1,039,141千円増加し、3,733,271千円となりました。これは主に2022年9月に資金調達を行ったことにより現金及び預金が1,185,749千円増加したことに加え、原材料及び貯蔵品が239,071千円増加、四半期会計期間末日が休日であったことにより受取手形及び売掛金が486,551千円増加した一方で、商品及び製品が893,821千円減少ことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ904,312千円増加し、1,504,905千円となりました。これは主に、前年度末に季節借入として行っていた短期借入金200,000千円を返済した一方で、長期的な運転資金を確保し安定的な経営戦略を採用するために、社債および長期借入金にてそれぞれ500,000千円ずつの資金調達を行ったことによる影響であります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ134,829千円増加し、2,228,366千円となりました。これは主に、四半期純利益の計上により利益剰余金が169,898千円増加した一方で、繰延ヘッジ損益が35,663千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は59.7%（前事業年度末77.7%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。))は、前事業年度末に比べ1,185,749千円増加し、1,496,050千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の増加は、421,784千円となりました。これは主に、税引前四半期純利益の計上245,483千円、棚卸資産の減少額654,749千円、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日であったことによる売上債権の増加額486,551千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は、5,681千円となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出5,305千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の増加は、768,554千円となりました。これは主に短期借入金の減少200,000千円、長期借入による収入500,000千円、社債の発行による収入492,960千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月12日の「2022年6月期決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	310,301	1,496,050
受取手形及び売掛金	583,359	1,069,911
商品及び製品	1,301,783	407,961
原材料及び貯蔵品	288,364	527,436
その他	92,592	82,944
貸倒引当金	△1,088	△2,021
流動資産合計	2,575,313	3,582,284
固定資産		
有形固定資産	16,977	12,939
無形固定資産	18,865	21,212
投資その他の資産	82,973	116,834
固定資産合計	118,816	150,987
資産合計	2,694,130	3,733,271
負債の部		
流動負債		
買掛金	151,951	59,401
未払法人税等	7,509	103,494
短期借入金	200,000	—
1年内償還予定の社債	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	—	100,000
その他	235,992	361,842
流動負債合計	595,453	724,738
固定負債		
社債	—	400,000
長期借入金	—	375,000
資産除去債務	5,139	5,167
固定負債合計	5,139	780,167
負債合計	600,593	1,504,905
純資産の部		
株主資本		
資本金	245,661	245,990
資本剰余金	235,661	235,990
利益剰余金	1,599,059	1,768,957
自己株式	△229	△293
株主資本合計	2,080,152	2,250,644
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	13,385	△22,278
評価・換算差額等合計	13,385	△22,278
純資産合計	2,093,537	2,228,366
負債純資産合計	2,694,130	3,733,271

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年7月1日 至2021年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自2022年7月1日 至2022年12月31日)
売上高	2,212,714	2,893,604
売上原価	1,173,716	1,765,785
売上総利益	1,038,998	1,127,818
販売費及び一般管理費	783,351	877,922
営業利益	255,646	249,896
営業外収益		
受取利息	3	2
為替差益	1,510	4,402
その他	734	1,173
営業外収益合計	2,248	5,578
営業外費用		
支払利息	—	2,158
社債利息	—	550
社債発行費	—	7,039
その他	10	242
営業外費用合計	10	9,990
経常利益	257,884	245,483
税引前四半期純利益	257,884	245,483
法人税、住民税及び事業税	74,704	94,407
法人税等調整額	4,932	△18,822
法人税等合計	79,637	75,585
四半期純利益	178,247	169,898

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	257,884	245,483
減価償却費	5,137	7,826
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	702	933
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△44,334	—
受取利息及び受取配当金	△3	△2
支払利息	—	2,158
社債利息	—	550
社債発行費	—	7,039
為替差損益 (△は益)	△152	△1,092
売上債権の増減額 (△は増加)	△371,012	△486,551
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△62,748	654,749
仕入債務の増減額 (△は減少)	11,602	△92,550
未払金の増減額 (△は減少)	△2,082	△8,856
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	31,916	△41,755
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	59,894	143,381
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	△217	245
その他	27	27
小計	△113,386	431,587
利息及び配当金の受取額	3	2
利息の支払額	—	△2,296
法人税等の支払額	△82,687	△7,509
営業活動によるキャッシュ・フロー	△196,069	421,784
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,743	△830
無形固定資産の取得による支出	△1,872	△5,305
敷金及び保証金の差入による支出	△3,616	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	454
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,231	△5,681
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△200,000
長期借入れによる収入	—	500,000
長期借入金の返済による支出	—	△25,000
社債の発行による収入	—	492,960
株式の発行による収入	7,995	658
自己株式の取得による支出	—	△63
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,995	768,554
現金及び現金同等物に係る換算差額	152	1,092
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△195,153	1,185,749
現金及び現金同等物の期首残高	671,641	310,301
現金及び現金同等物の四半期末残高	476,487	1,496,050

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。